

ねいの里 ホォホォニュース



◆ 「ねいの里」利用サークル紹介 「まめでっぼう」サークル

自然塾の皆さんこんにちは！育児サークル「まめでっぼう」です。当サークルは、ねいの里にて、自然博物館様のご厚意により活動させていただいている、森の中で親と子とお友達と自然が触れ合う『森のおさんぽ会』です。下は0才からメインは1~2才、未就学児まで毎週金曜日10時から、お弁当を持って森に遊びにきています。その他にも、月1~2回、週末バージョンと題して、大きなご兄弟やパパさんにも一緒にダイナミックに遊んでもらっています。時には一品持ち寄りポットラックパーティをしたり、お誕生会の子の、ママの手作りおやつをいただいたり、囲炉裏でお料理を作ったりします。大きなおもちゃがなくても、おぼけ屋敷ごっこをしたり、泥遊びしたり、木登りしたり、木の実を拾ったり、かくれんぼしたりととても楽しそうです。与えられたおもちゃでなく、子供だけで、自分達で考えて遊ぶということがめっきり減ってしまった昨今の育児環境には、とても貴重なサークルではないかと自負しております。ケンカが始まってもすぐには止めない。子供たちだけでなんとか解決できることがほとんどです。時には大きなお姉ちゃんたちが親代わりに仲裁役になったり。小さいひっかき傷程度、大したことはないです。

そうやって人(または自分)の体や心を傷つけてしまったことは、いずれ自分の成長にプラスになります。ブログもありますので良かったら御覧くださいませ。

または『富山 まめでっぼう』で検索してみてください。
新規会員大歓迎です！また自然塾にも参加させていただきますのでよろしくお願い致します。(世話役 西島陸美 市村篤子)



活動をふりかえり

◆ ハッチョウトンボと昆虫ウォッチングに参加して

自然塾の会 会員 土井嘉次

ハッチョウトンボの生態の詳細なお話、そして実際に飛翔する姿を見ることができ、大変有意義でした。思えば、私がナチュラリストを目指すきっかけとなったのが、4年ほど前に婦中自然公園で見たハッチョウトンボの愛らしい姿、その不思議さがナチュラになるきっかけでした。富山の自然にもっとふれたい、そして知りたいと思ったのです。そんな意味で今日は特に感慨がありました。ねいの里ではまだ健在で、いつまでもこの環境が保たれればと願っています。



◆ ホタル鑑賞会

6月14日 第2回目となる、ホタル鑑賞会が行われました。一般参加者は85名で、ホタル鑑賞に先立って昆虫研究家高野敏明さんによるホタルの講演、山下眞佐子さんによるホタルに関する植物説明がありました。日没後、約80本の竹灯籠に点火、観察が始まりました。水辺では昨年同様多くのヘイケボタルが乱舞し、参加者に幻想的な風景を演出してくれました。特に子供たちはホタルを手に乗せたり、ホタルブクロに入れたり楽しそうでした。昨年・今年と沢山のホタルの発生は、「ねいの里」の水辺環境のエコアップによりヘイケボタルの生息環境が保護されている証拠だと思われま



高野敏明さんのホタル講演



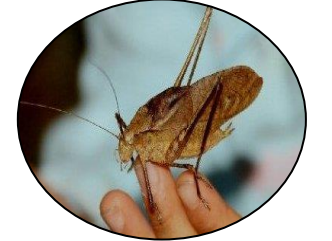
山下眞佐子さんのホタルブクロ説明



情緒ある炭焼き小屋通路の竹灯籠

◆ 中秋の名月とクツワムシを愛でる

9月14日初めての企画として、ねいの里でクツワムシの観察会が行われました。県内では、小矢部市など4箇所では確認されていない秋の虫クツワムシ、ねいの里のピオトープで生息地の復元に成功しました。当日は天気にも恵まれ約40名の一般参加者がありました。塾長よりねいの里でのクツワムシの復元の経過、山下眞佐子さんの星座解説、高野敏明さんのクツワムシの解説後、暗くなったフィールドで観察会入りました。すぐにクツワムシの大きな鳴き声が聞こえ主催者はホット胸をなで下ろしました。参加者はススキの中のクツワムシ観察や独特な鳴き声等、観察会を堪能しました。来年は更に多くの鳴き声が聞ける事を期待したいと思います。



手に止まったクツワムシ

里っこ山っこにっこに

「私のジュニアナチュラリスト活動」

青木 隼一 さん (京都府立大学2年生)

僕は小学校・中学校の頃、休日の多くを友人とねいの里を歩き回ることに費やしていましたが、それでも毎回、新しい発見をしていた気がします。だから飽きることなく今でも帰省した時は暇さえあればねいの里に通っているのです。今回も何かあるのではないかって期待しながら……。ねいの里は、それくらいに豊かで人を魅了する自然を有しているのだらうと思います。そんな中で、学んだことは、僕にとってかけがえのない経験です。ですからジュニアナチュラリストの後輩のみなさんにも、ねいの里での自然体験を大切にしてほしいです。もしかしたら僕みたいに、自然に携わる仕事につきたいと考えるきっかけになるかもしれません。

毎月第1土曜日が活動日です。

塾の会活動日のうち、ねいの里との共催行事には参加予約が必要です。

お気軽にねいの里へお越しください！ (都合のよい時間だけの部分参加も歓迎です。)

昼食は各自ご持参ください、炭焼き小屋の囲炉裏をかこんで食べましょう。

11月1日(土)	11月29日(土) 12月6日(土)
○ 午前10時～ ・落葉しおり作りと落葉ビンゴゲーム 落葉でしおり作りなどをして遊びます ・ササユリ植栽 ジュニアナチュラリストが実生から育てたササユリの球根を植え付けします	○ 11月29日 午前10時～ 園内散策とクリスマスリース材料等の準備 ○ 12月6日 午前9時30分～ クリスマスリース作り
参加者/定員なし	参加者/定員なし

～ねいの里行事予定 案内～

- 10月19日(日) 9:00～13:00 キノコ狩りとキノコ汁を愛でる
ねいの里の園内でキノコ狩りと判定会の後、美味しいキノコ汁を味わいます。
定員 300名 参加者は予約が必要です。
- 12月7日(日) 9:00～11:00 キノコづくりにトライ
コナラの木にシイタケ菌を植え付けたホダ木づくりを行います。
定員 30名 参加者は予約が必要です。

■ 特別展示

- 9月1日～10月22日 ねいの里キノコ写真展
- 10月24日～11月19日 ナチュラリスト協会写真展
- 11月21日～ 3月18日 自然塾の会写真展

■ お願いとお知らせ ■

- 会員の駐車場利用について
会員の方は、「ねいの里」行事への参加や施設の利用を前提に、休祭日の「いこいの村」駐車場利用料金が無料となっています。会員の方が駐車される場合は、ナチュラリスト駐車場の利用をお願いします。

発行 生き物ふれあい自然塾 塾長 湯浅純孝

〒939-2632 富山県富山市婦中町吉住1-1 自然博物館ねいの里内
Tel 076-469-5252 / メールアドレス shizen@toyamap.or.jp
ホームページ <http://www.toyamap.or.jp/shizen/>

ふくろう通信

第11号
2008年10月01日
生き物ふれあい自然塾



今日のふくろう先生は 石動 孝一 さん
(自然塾の会運営委員)



子供たちにとって自然とは

私は現在、小学校に勤務している。また県のキャンプ協会のお世話をさせていただいている立場にある私にとって、ナチュラリストとしての自然保護解説もさることながら、毎日顔を合わせる子供たちの様子を見ていて感じることもある。それは、子供たちの生活の中で「自然が自然ではなくなっている」ということである。

一昔前であれば、モンシロチョウやクワガタムシは、日常の生活の中で当たり前に見ることができた。学校の登下校時に、オオバコですもうをしたり、シロツメクサで首飾りを作ったり、草笛をふいたりすることはどの子もふつうにできることであった。

田んぼではカエルと遊び、用水の水が落とされれば魚を捕ったり泳いだり。しかし、現在では、登下校中に道草する子供を見なくなったし、川で遊ぶなどもってのほか。道ばたの草花や身の廻りの自然の中で遊ぶ機会はほとんどなくなっているのが現状である。もはや「自然」は非日常になっているのではないだろうか。

私の「自然」に対する思いは、「人間は自然の中で生かされている。自然は命のつながりを学ぶ教科書だ。」ということである。そして、さまざまなものが影響し合って日々変化しているものだと思っている。

現在、文部科学省もさまざまな施策を講じ、子供たちへの体験活動の機会を増やそうとしている。自然の中で子供たちが五感を使ってさまざまな体験をすることは、学校教育の中では限界がある。社会教育のさまざまな機関、団体への期待は大きいものがあると思うし、時代の要請は確かである。

こういう時代だからこそ、ぜひとも子供たちを自然の中に連れ出し、日常では体験できない「ありのままの自然」を一人でも多くの子供たちに体験させたいと願う。「ありのままの自然」を、守り育てている「ねいの里」まさに子供たちにとっての「生きる教科書」だと考える。私自身も、できる限り「ねいの里」の活動に協力し、子供たちに感動と発見を味わわせる機会を作っていきたいと思っている。

